

平成 28 年度「隠岐広域連合地球温暖化対策実行計画」の取組結果について

1. 計画の概要

隠岐広域連合では事務事業活動に伴い排出される温室効果ガスを削減するため、「第 2 期隠岐広域連合地球温暖化対策実行計画」（平成 24～28 年度）を策定し、対策に取り組んでいます。※この計画における温室効果ガスは二酸化炭素としています。

■平成 28 年度の取組結果は以下のとおりです。

(単位：t co2)

	平成 22 年度 (基準年度)	①目標値 (削減△3%)	②平成 28 年度 (実績)	比較増減 (②-①)
二酸化炭素	2,265	2,198	2,652	454

2. 温室効果ガスの排出状況

1) 主要項目別取組結果

■主要項目別では、電気についての排出量が基準年度に比べて大きく増加、A 重油については隠岐病院ボイラーが無くなったため、排出無しとなっています。

(単位：t co2)

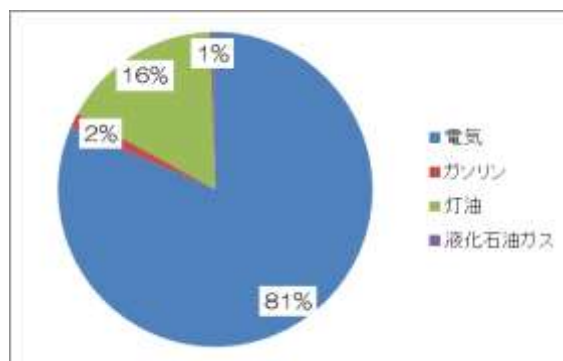
	平成 22 年度 (基準年度)	①目標値 (削減△3%)	②平成 28 年度 (実績)	比較増減 (②-①)
電気	1,446	1,403	1,831	428
ガソリン	65	63	35	△ 28
軽油	34	32	3	△ 29
灯油	368	357	370	13
A 重油	282	274	0	△ 274
液化石油ガス	69	68	12	△ 56

2) 要因別温室効果ガスの排出割合

■排出割合を見ると、電気が 81%、灯油が 16%と多くを占めています。

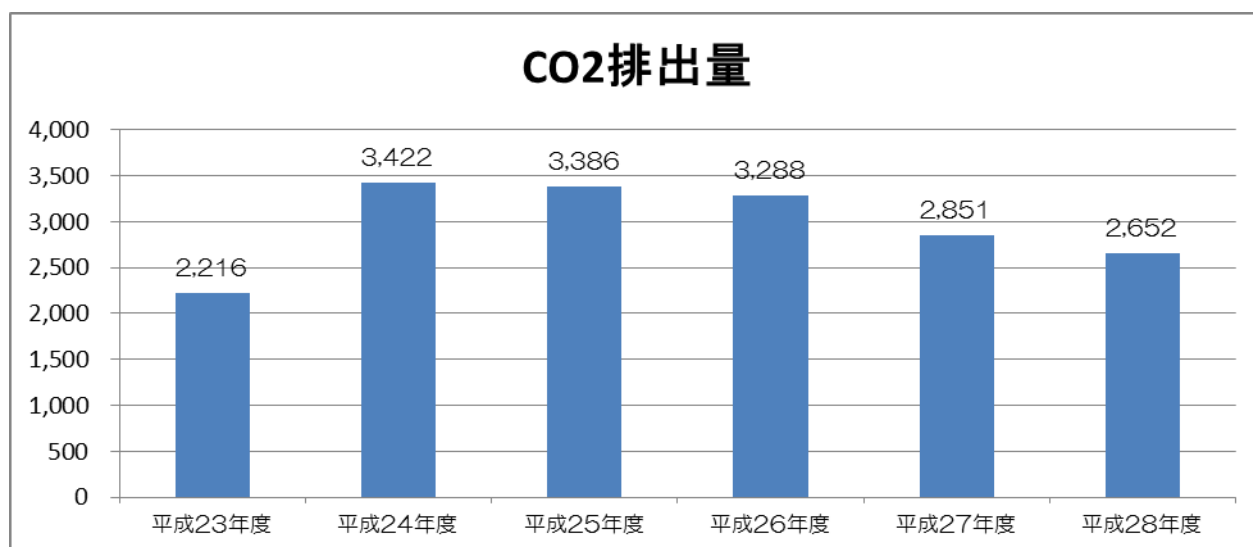
(単位：t co2)

	平成 28 年度 (実績)	割合
電気	1,831	81%
ガソリン	35	2%
灯油	370	16%
液化石油ガス	12	1%



3) 取り組みの推移

■平成 28 年度は平成 22 年度（基準年度）と比較して 17%の増加、目標値と比較して 21%の増加となっています。



3. 取組結果の状況

隠岐広域連合の温室効果ガスの総排出量は基準年度に比べ増加しました。

要因としては平成 24 年度の隠岐病院新築によりエネルギー使用形態が変動、電気使用量が大幅に増加したためですが、以降は総排出量を抑えることができてきています。

4. 今後の取り組み

職員一人ひとりが事務事業の執行の中で、日常的に省エネ・省資源に取り組むことにより、温室効果ガスを削減することができています。今後もノー残業デーの徹底や冷暖房機器等の光熱費の削減を継続して取り組んでいきます。

庁舎設備に関する省エネ機器等の新規導入は困難ではありますが、目標を達成するため、職員の更なる意識向上を図るとともに、取り組みを推進していきます。

【参考】 隠岐広域連合の対象施設毎の温室効果ガス排出量

(単位：t co2)

	平成 28 年度温室効果ガス排出量
事務局	24
隠岐病院	2,154
隠岐島前病院	370
消防本部（分署・出張所含む）	104